

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体  
育)／木原 資裕

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

私の担当する授業においては、安心して40名の子どもを託するに値する教員になり得るかとの視点から、学生を鍛え、指導したいと考えている。そのために以下の点を留意する。

- ①できるだけ、受講生に発言の機会をつくり、問題意識を深め、議論する。
- ②授業内容に関連したレポート提出を求め、その内容およびプレゼン能力で成績評価することを公表し、合格レベルに達していないものについては、再提出させる。

## 2. 点検・評価

学部「地域文化研究」及び、大学院「四国遍路と地域文化」の担当として、歩き遍路実習に携わった。歩くことを通しての自分自身への気づきや宿坊での生活作法について、厳しく指導した。

また、大学院「教育実践フィールド研究」においては、附属中学での教育実習生の剣道授業を題材に、「剣道授業の陥りやすい問題点」というテーマで研究をまとめ、武道必修化に伴う剣道授業実践に役立つ内容となっている。

## II. 分野別

## II-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

- ①学生が自分の「得意な事」を見つけ、深めていけるよう、授業、修士・卒業論文の指導にあたる。
- ②剣道部顧問・監督として、剣道部の活動に積極的に参加し、学生・院生の心身鍛練の強化に当たる。
- ③学生の進路、悩み等の相談に応じられるコミュニケーションをとれる機会を多くもつようにする。

## 2. 点検・評価

①③に関して、学会参加においては、同宿同部屋で寝食をともにし、勉学以外の相談に応じ、ゼミ生の人間性を理解する機会とした。  
②に関しては、四国インカレで久しぶりの男子3位入賞を果たした。徳島県女子剣道大会において、優勝・3位入賞者を輩出することができた。

## Ⅱ-2. 研究

### 1. 目標・計画

年間1回の学会発表およびシンポジストができるよう研究成果をまとめ、さらに、論文として年間1本の全国レベル研究誌に投稿する。

## 2. 点検・評価

発表に関しては、個人発表およびシンポジストとして、その目標は達している。しかし、研究論文を全国レベル研究誌に投稿したが、不採択となった。その論文を再編集して、鳴門教育大紀要に「メディアの中の甲子園・高校野球—新聞・テレビの報道量を中心に—」というテーマで掲載した。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

①委員として学内の各種会議に出席し、職務を遂行する。  
②講座会議、部会議、全学集会へ公務が重複する以外は出席する。  
③大学運営に関する問題点・意見・発案を各種委員等で積極的に提言する。

## 2. 点検・評価

①②③ともに積極的に発言し、職務を遂行している。  
特に、大学院入試委員として、積極的に県外大学への受験者勧誘に努め、本年度大学院入学生4名確保にかかわった。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①附属学校での研究会および附属学校との懇談会に積極的に参加し, 相互の教育・研究の情報交換, 討議を行い, その発展に努める。
- ②教育支援講師, アドバイザーなどとして, 積極的に学校現場, 地域主催研修会等に出向き, 指導・助言を行う。(社会貢献)

### 2. 点検・評価

- ①に関しては, 附属中学校での教育実践フィールド研究のコース担当者として, その任に当たっている。また, 附属での研究会にも積極的に参加している。
- ② 徳島市教育委員会の依頼を受け, 中学校武道必修化にともなう講習会の指導講師としてその任にあたった。また, 徳島県教育委員会においても3年前より剣道研究委員会を設置しており, 私自身, 委員会発足当初より中学校体育教員とともに研究メンバーとして参加し, これまでに3枚の指導DVD作成・編集に携わって来ている。  
また, 公開講座「さわやか剣道教室」を開講し, 小中学生16名に剣道指導を行った。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)